

令和7年度 第6回 久留米市食料・農業・農村政策審議会 議事録

日 時:令和8年3月26日(木) 14時30分~16時00分

場 所:久留米商工会館 5階大ホール

出席者:16名

福田会長、吉永副会長、國武委員、梶山委員、永松委員、中村正寛委員、野村委員、宇佐川委員、中村美紗委員、田中委員、稲吉委員、田川委員、高良委員、矢次委員、豊福委員、橋本委員

欠席者:3名

行徳委員、小川委員、中園委員

事務局:農政部 大野部長、井上次長、樋之口流通担当次長

農政課 戸上課長、藤原主幹、池上課長補佐、松岡主査、権藤

農業の魅力促進課 石橋課長 生産流通課 木下課長

農村森林整備課 津川課長、塚本主幹、永田主幹

農業委員会事務局 上野事務局長

田主丸総合支所産業振興課 林田課長 北野総合支所産業振興課 山崎課長

城島総合支所産業振興課 田川課長 三潴総合支所産業振興課 岡野課長

一般財団法人 久留米市みどりの里づくり推進機構 半田専務理事、本木事務局長

傍聴者:なし

次 第: 1 会長挨拶

2 報告事項

パブリック・コメントの結果について

3 審議事項

答申案について

<答申>

1 会長挨拶

会長	挨拶
----	----

2 報告事項

パブリック・コメントの結果について

事務局	【「資料 第4期久留米市食料・農業・農村基本計画(案)に対するパブリック・コメントの結果について」に基づき説明】
	(質問・意見なし)

3 審議事項

答申案について

事務局	【「資料 第4期久留米市食料・農業・農村基本計画【答申案】】に基づき説明】
A 委員	7ページの農業産出額の目標値について、県の状況も踏まえて設定しているようだが、どのような品目が伸びているのか。昨年から今年にかけて、特に野菜類は、店舗側は生産者から安く買って、高価格で売っている。インフレが続く限り、生産者は厳しい状況。米は昨年度高かったが、品目別にわかれば教えてほしい。
事務局	福岡県では米が伸びている。R6年536億円、R5年388億円で58.6%増。野菜は9.9%増。芋類11%増。鶏がマイナス17.2%、そのうち鶏卵はマイナス25.4%。全体として、福岡県のR6年度農業産出額は2,301億円で、R5年の2,096億円から9.8%増。
B 委員	R6年は園芸品目も苦戦をしている。4月に食料システム法が施行され、米は生産コストが2万円ほど。現在価格が落ち着いてきているが、今の状態がベースとなると今後は厳しい。農業産出額を目標項目に設定したのであれば、達成を目指さなくてはならない。16ページに、我々農業団体の責務も含めそれぞれの責務が記載されている。大事なものは、持続可能な農業であること。価格転嫁ができないようなインフレで、生産調整も限界にきている。組合員からの不安の声も聞いている。計画の推進体制をしっかりと、JAも一生懸命やるので市も覚悟を持って推進してもらいたい。
事務局	指標の設定は、最新の上昇幅を完全に反映したものではなく、ここ数年の傾向を反映させている。目標達成は市だけでできるものではない。農家、事業者、市民、様々な方が関わって達成を目指すものであり、今後、計画の周知を図っていきたい。
B 委員	認知度、愛着度の測り方については、より正確に反映できるよう、数多くアンケートを取ってほしい。
事務局	以前の審議会でもサンプル数が少ないのではという意見があり、R8年度以

	降、サンプル数が数百人のくるモニヤ、千人単位で集まる農業まつりのアンケート等で把握し反映していきたい。
C 委員	9ページの2に関連して新規のハウス・機械導入への補助金はあるが、中古ハウスの購入、中古の部材で建てる場合の補助金がなく、そういうものがあれば新規就農の人が増えるのではないか。今、担い手不足で空きハウスも増えている。空きハウスを移設したいが自己資金では厳しく補助金があれば何とかなるかもしれないという話を聞く。そのような補助金をお願いしたい。
事務局	新規就農の認定を受けた方への国の支援策では、中古のハウスの購入は対象となっている。
事務局	認定農業者を対象とする県の活力ある高収益事業では、中古ハウスは対象にはなっていない。そのような要望があるということは認識しているので、県には機会があることに要望している。
D 委員	売上が数千万から数億円の人もいて一括りにできないと思うが、特に売り上げが多い、または雇用が多い農業者は、様々な農業の課題を先進的に対応している実態がある。雇用については外国人雇用、販路、企業的な経営であれば財務・資本金をどうするかなど、日々様々な問題に直面している。昨今では価格が下がっているという相談も受けている。そのような中で事業承継や、なかには他県へ農場を展開するなど、これまでにない課題に対応している経営者に会う機会が多い。今後、先進的な経営者の課題を聴きとってそれに対して何かできないかという定期的な機会があればいいのではないか。パブコメでも久留米市が農業のモデルケースとなるようにという意見があったが、久留米市農業の潜在力は高いと思うので、今回をスタートとし、様々な経営者が発展する久留米となればと思う。
B 委員	10 ページの基幹的な担い手の経営力強化の部分で、女性農業者も含めて、ワークライフバランスについて触れている。我々も、営農のDX化を全国に先駆けてやっていきたいと資金を入れて模索しながら進めている。久留米市も一緒になって、意見をいただきながら進めていきたい。 9 ページの安全で安定的な農畜産物の提供の部分で、農業分野は全国的に事故率が高い。我々も啓発活動などをしていかなければならない。生産者に広めていかないと、大事な時に担い手が休業せざるを得ない事態は起こりうる。特にこの部分については、早期に取り組まないといけないと思う。
E 委員	9 ページの安全で安定的な農畜産物の提供の部分で、労災が強制適用になるとのことで、私も農水省の委員として検討会で審議している。法人化しているところは既に対応しており問題ないが、多くの家族経営農家は未加入の現状がある。そのような農家に対して、わかりやすい案内や、一人当たりの負担は皆さんが思っているほどの額ではないという周知など、早期に農家

	の不安解消に努めてほしい。
A 委員	JAの青色申告会で、労災について社会保険労務士の講演をしており、久留米支部で会員約 300 名に対し研修会をしている。保険料は収入の1.3%だったかと思うが労働者に対して損害賠償が発生したときに対応できる。
F 委員	福岡市植物園でふくおかフラワーショーを大々的にやっており、先日見に行った。花や緑を好きな人は多く、車がとめられないほどの渋滞で、10 時開園で 9 時半には 200 人くらい並んでいた。ショーガーデンが展示され、外国人招待者も来られていた。その方が緑化センターに買い物に来られた。プロの間では緑化センターは知られているが、福岡の方にもアピールができないか。福岡市では、一人一花運動で様々な方に協賛をしてもらっており、アピールが上手。久留米市でも中心部ではやっているが、福岡県で連携する形で何かできないか。パンフレットには植物の名所が載っており、北九州市や福岡市の公園は載っているが久留米市は載っていなかった。
会長	答申案については、原案のとおり承認ということでよいか。
全員	異議なし
	(原案のとおり承認)

<答申>

○福田会長から市長へ答申

その他

事務局	2 月の全国果樹技術経営コンクールで本審議会委員の中村美紗氏が最高位である農林水産大臣賞を受賞された。日頃の観光果樹園や直売と融合した複合経営による高収益化や多角化、女性が活躍できる職場づくりが認められていることであり、この場でご紹介する。
事務局	本審議会の委員である豊福氏から、ミニ大根「美小姫」の案内があるとのことなので、ご紹介する。 (美小姫について紹介)
農政部長	挨拶

15:30 終了